

6 講座の基本的な流れ (30分講座の場合)

順	流れと活動	時間	説明							
1	<p>【導入】</p> <p>①アイスブレイクをする。</p> <p>②活動のねらいを知らせる。</p> <p>※ねらいを知らせることとアイスブレイクの順番はどちらが先でも構わない。</p>	5分	<p>☆ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいを分かりやすく伝える。 ・場の雰囲気や参加者の緊張を和らげる。 ・次の活動をやりやすくする。 <p>○本講座のキーワードを知らせる。用紙等を書いておき、提示する。プロジェクターを使ってもよい。</p> <p>○簡単なゲーム等で雰囲気や参加者の緊張を和らげる活動を「アイスブレイク」と呼ぶ。</p> <p>○本プログラムで取り上げている活動は、一例であり</p> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">◇講座設定時間</td> <td style="border: none;">◇目的</td> <td rowspan="3" style="border: none; font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">◇人数</td> <td style="border: none;">◇場所の広さ</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">◇受講者の構成メンバー</td> <td></td> </tr> </table> <p>等に応じて、<u>どのアイスブレイクを取り入れるかを考えたり、内容をどう工夫するかを</u>考えたりすることが必要。</p> <p>○次の活動をグループで行う場合は、アイスブレイクのゲームでグループを作ると効果的に進行できる。</p>	◇講座設定時間	◇目的	}	◇人数	◇場所の広さ	◇受講者の構成メンバー	
◇講座設定時間	◇目的	}								
◇人数	◇場所の広さ									
◇受講者の構成メンバー										
2	<p>【展開】</p> <p>①中心の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人での活動 ・ペアやグループでの活動 ・全体での活動 	20分	<p>☆ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりかたを丁寧に説明する。 ・グループを見てまわり、声をかける。 ・時間を意識する。 <p>○参加者が「正しく答えよう」「変なことを言わないようにしよう」と思うと、発言しにくくなる。</p> <p>○グループでの活動の時、思うように話し合いが進んでいない場合は、次のような対処法がある。</p> <p>①スムーズに進んでいるグループで出された意見や活動の様子を紹介する。(全体の活動を止めて、短時間で行う。)</p> <p>②思うように話し合いが進んでいないグループに、進行役(ファシリテーター)がしばらく入り、進行を手助けする。</p>							

順	流れと活動	時間	説明
3	【まとめ】 ①振り返り、分かち合う。 ②活動をまとめる。	5分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ☆ポイント ・振り返りは必ず入れる。 ・振り返りのポイントをはっきり伝える。 ・時間を意識する。 </div> <p>○活動を通して気付いたことを個人で振り返りシートに記入し、グループで発表する。他の受講者の思いや多様な価値観にふれ、これまでの自分を見つめ直し、これからの子育てのための気づきを得ることができる。この活動をメインの活動の最後に位置付けることもできる。</p> <p>個人→グループ→全体と広げ、個人の振り返りを互いに共有すると、より学びが深まる。</p> <p>○進行役は、参加者の振り返りと関連付けながら、講座のポイント伝える。</p> <p>○まとめでは、参加者が、子育てに対しての意欲が高まるように、進行役の体験談を話したり、「くまもと家庭教育10か条」を紹介したりする。また、絵本の読み聞かせやわらべうた等を紹介することも効果的である。</p>



子育てサークルでの講座



H28年度「親の学び」モデル園での講座の様子

【「体験談」の使い方】

○進行役や子育て経験者の体験談を講座の中（導入時やまとめで）に用いることは、身近な人から子育ての話が聞け、講座のねらいが深まる。しかし、その使い方によっては、効果が上がらず、参加者の子育てに対する意欲が高まらない場合が生じるので気を付けましょう。

◆体験談が成功事例の場合：その話を「よかった」「すごい」とスムーズに受け入れられず、自慢話に聞こえたり、「自分にはできない」と感じたりする場合がある。

◆体験談が失敗談だった場合：話し手に、親近感を覚え、子育てに対する安心感（「進行役の人もそうだったんだ」、「自分だけじゃないんだ」とい思いの共有）や意欲の向上につながる効果が期待できる。



【誰もが参加しやすい状況を・・・】

○乳幼児の子どもを持つ保護者を対象に、「親の学び」講座を開催する場合は、園等に入る前の子どもさんと一緒に参加される保護者の方もいらっしゃるので、誰もが参加しやすい状況を考えることが大切です。

〈例〉

・赤ちゃんが泣き始めたら、代わりに抱っこする。

→進行役が二人の場合は、進行していない方が抱っこする。

進行役が一人の場合は、活動がグループワークの時に抱っこする。（導入やまとめのときの抱っこは進行上難しい）

※保護者の方の了承が必要です。

※無理に抱っこしたり、託児をお願いしたりする必要はありません。